

伊勢・三河湾海域干潟ビジョンの概要



伊勢・三河湾では、過去の沿岸域の埋立等により生物の生息場や水質浄化の場として重要な干潟・浅場が減少するとともに、干潟・浅場の生物を代表するアサリの資源量も減少しています。本ビジョンでは、愛知県と三重県が連携し、当海域におけるアサリの減少要因や海域環境の情報を基に、海域全体のハード・ソフト対策が一体となった実効性のある効率的な干潟・浅場の保全・創造に向けた行動計画を策定しました。

1. 干潟・浅場の状況

表1. 干潟面積（水深0m以浅）

海域	昭和20年度	令和2年度（残存率）
伊勢湾	2,939 ha	1,319 ha (44.8%)
三河湾	2,627 ha	1,463 ha (55.7%)

表2. 干潟・浅場面積（水深5m以浅）

海域	昭和30年度	平成16年度（残存率）
伊勢・三河湾	45,320 ha	32,200 ha (71.1%)

2. アサリの減少要因

- 沿岸域の埋立、貧酸素水塊の発生長期化等による漁場環境の悪化、生息適地の不足
- 資源や産卵量の減少に伴う浮遊幼生密度の減少、天然・移植稚貝の生残率低下、出水による大量へい死等の生活史ネットワークの停滞
- 台風・低気圧などの波浪に起因する底質の移動、漁場への土砂供給の減少等の底質の不安定性
- ツメタガイ、ヒトデ、カイヤドリウミグモ等の害敵生物の増加
- 陸域からの窒素・リンの流入負荷量の削減や河川流量の減少等による栄養不足

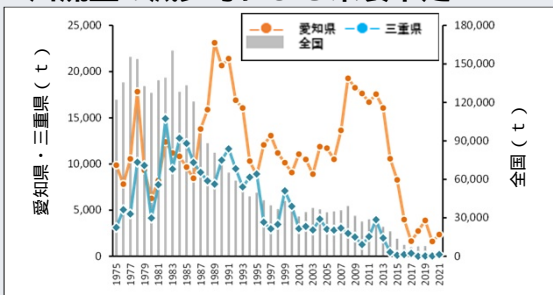
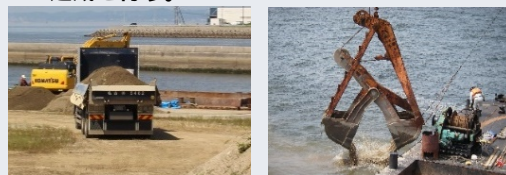


図1. アサリ漁獲量

3. 干潟の保全・創造対策

(1) ハード対策

河川・海域の浚渫砂、砕石等を用いた干潟・浅場の造成を行う。



(2) ソフト対策

稚貝放流、漁場耕うん、害敵生物駆除等の漁場の保全活動に取り組む。



4. 干潟ビジョンの行動計画

(1) 検討・実施体制

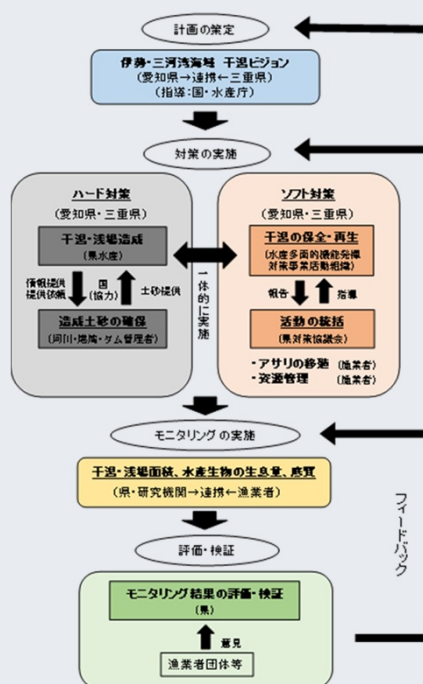


図2. 検討・実施体制

(2) 対象種

表3. 干潟ビジョンの対象種

	対象種
愛知県	アサリ、トラフグ、スズキ
三重県	アサリ



(3) 目標の設定

表4. 伊勢・三河湾における活動目標

	現状値 (令和3年度)	趨勢値 令和8年度 (5年後)	中間目標値	
			令和8年度(5年後)	令和13年度(10年後)
干潟・浅場 面積	32,327 ha	27,113 ha	愛知県 55 ha 三重県 7.5 ha	愛知県 120 ha 三重県 15 ha
			ハード対策 (干潟・浅場造成)	
対象種 (アサリ) の漁獲量	愛知県 23,596 t 三重県 289 t	愛知県 19,831 t 三重県 243 t	愛知県 5,048 ha 三重県 166 ha	愛知県 5,048 ha 三重県 166 ha
			ソフト対策 (水産多面的機能発揮対策)	

現状値（干潟・浅場面積）は、平成16年度の面積に、令和3年度までの造成面積127haを加算
 趨勢値（干潟・浅場面積）は、保全活動の面積5,214 ha(5,048 ha + 166 ha)が維持されないと仮定
 目標値（干潟・浅場面積）は、趨勢値に両県のハード対策とソフト対策の面積を加算